

ME22 寺野 涼

指導教員 山舘 順 准教授

1. 緒言

本研究は平成 23 年度卒、竹村周大の卒業研究を引き継いだものである。

本研究の狙いは東京都福生市出土銭貨を成分分析し比較検討することにより中世当時の経済状況や流通経路を考察し、後の研究に役立つ為の手がかりを見出そうとするものである

今年度は遺跡の性格把握に重点を置き熊川遺跡に絞り込んで分析を実施した。

2. 研究のアプローチ

中世の社会の資料は戦争、災害などによって殆ど失われている、文書史料のみでは未詳部分が多く、物質資料分析が必要となる。中世銭貨は国内の至る所から出土しており、1枚1枚の銭貨からでも銭種の特定、成分分析による製造方法などの手掛かりを引き出す事ができる。[1]

遺跡周辺には神社熊川神社があり、この神社は熊川遺跡と数百 m の距離を隔てており、1597 年(慶弔 2 年)の棟札3枚が現存している。[2][3]

本殿は一間社流見世棚造、板葺きであり、室町時代の様式を伝える福生市内最古の現存木造建築である。[3]

又熊川遺跡は多摩川と秋川の合流点に近く、周辺に物資流通の結節点の存在を想定できる

今年度は実際に福生市郷土資料室より、永楽通寶 20 枚、洪武通寶 3 枚、宣徳通寶 3 枚の計 26 枚を貸与していただいた。

今回の研究において、洪武通寶、宣徳通寶は測定枚数が 3 枚と少なく考察データとして足りなかった為、永楽通寶 20 枚を中心に結論、考察を述べる。

3. 結果

今回測定した、洪武通寶、宣徳通寶、永楽通寶の計 26 枚の打ち各種 3 枚ずつのデータをそれぞれ表1、表2、表3に示す。

表1. 洪武通寶測定結果

資料番号	含有成分(mass%)			
	Cu(銅)	Pb(鉛)	Sn(錫)	Fe(鉄)
12Ea01	71.6	18.2	9.09	1.18
12Ea02	61.7	27.9	8.30	2.03
12Ea03	78.7	11.5	8.49	1.37

表2. 宣徳通寶測定結果

資料番号	含有成分(mass%)			
	Cu(銅)	Pb(鉛)	Sn(錫)	Fe(鉄)
12Ed01	73.7	17.7	7.67	0.959
12Ed02※	41.8	49.8	6.42	1.422
12Ed03	51.2	41.6	6.22	0.943

表3. 永楽通寶測定結果

資料番号	含有成分(mass%)			
	Cu(銅)	Pb(鉛)	Sn(錫)	Fe(鉄)
12Eb01	12.1	80.0	5.87	2.01
12Eb02	79.8	13.4	5.57	1.23
12Eb03	64.1	25.3	7.38	3.21

4. 結論

永楽通寶の成分比を見ると、錫や鉄はそれぞれ、錫 5~7%、鉄 1~3%と比較的安定しているのに対して、銅や鉛はそれぞれ、銅 12~79%、鉛 13~80%と非常に大きな差が出ていることが表からわかる。この点から、永楽通寶の流通した 15~16 世紀には、銭貨の流通が盛んであったと推測できる。さらに、本稿の対象とした出土銭貨は呪術銭ではなく、実際の流通に使用されたものと推定する。

この点から遺跡周辺に銭貨流通の拠点が存在した事を指摘したい。熊川神社はその候補である。

一方、洪武通寶は、各成分の成分比の差が 10%以内と小さい。

12Ed02 の含有成分の中に中国河南省を主産地とする Sb(アンチモン)が 0.5%程含まれていた。

5. 今後の発展

今回の研究において、宣徳通寶、洪武通寶の測定枚数が少なかったため、研究のデータとして今後さらに、試料を増やす必要がある。

今後は、宣徳通寶、洪武通寶それぞれの測定データを増やし、より詳細な経済状況や流通状況の考察を目指していきたい。

文献

[1] 櫻木晋一, “貨幣考古学序説,” 慶應義塾大学出版会, pp21-26, 29-30, sept.2009

[2] 福生の指定文化財: 福生市郷土資料室 熊川神社本殿のページから引用

<http://www.museum.fussa.tokyo.jp/cultural/>

[3] 東京都の歴史散歩 下 多摩・島嶼 pp173